

財団法人福岡県すこやか健康事業団における健診（検診）実績報告

当事業団は、がん・生活習慣病の克服に向けて、科学的根拠に基づく質の高い健診（検診）、知識の普及啓発、調査研究等を行うために学術研究センターを設置しております。

特に、各種健診（検診）データの分析・評価を行い、予防医学等に関する調査研究に資するため、胃・大腸がん、乳がん、子宮がん、肺がん、生活習慣病、労働衛生の6部門からなる学術専門部会を設置し、各委員はそれぞれの分野の有識者で構成されています。

今回の報告は、6学術専門部会で分析・評価いただいた実績報告です。

【平成22年度健診（検診）実績概要報告】

平成22年度に当事業団で行いました健診（検診）総数は55万人近くになります。その内で主なものは、健康増進事業として行われています「がん検診」が300,749人（胃がん：82,005人、大腸がん：57,048人、肺がん：43,918人、子宮がん：60,156人、乳がん：57,622人）で最も多く、次いで健康診査127,202人（労働衛生における一般健診86,906人含む）、特殊健診12,086人でした。

近年、日本人の男性では、胃がん、肺がん、大腸がんの順に罹患率が高く、女性では、乳がん、大腸がん、胃がんの順に高くなっています。がん治療の進歩により、がんも早期で発見できれば治る病気であるといわれる今日この頃です。定期的ながん検診を受けましょう。

一方、平成20年度から生活習慣病の発症を未然に防ぐために、メタボリックシンドロームの該当者や予備軍を見つけ出し、対象者の生活習慣の改善を指導していく特定健診、特定保健指導が開始されました。特定健診は職域（企業等）44,763人、地域（住民）36,655人の81,418人でした。特定保健指導は職域で積極的支援（生活習慣改善の必要性が高い方）293人（評価率96.9%）、動機付け支援（対象者自身の努力による行動変容が促される方）407人（評価率96.7%）、地域で積極的支援89人（評価率77.5%）、動機付け支援309人（評価率87.5%）の計1,045人を実施しました。支援開始6ヶ月後の腹囲・体重の変化の平均は、職域の積極的支援で-2.0cm・-1.9kg、職域の動機付け支援で-1.4cm・-1.3kg、地域の積極的支援で-1.5cm・-1.9kg、地域の動機付け支援で-0.4cm・-1.1kgでした。

特定保健指導により、概ね腹囲・体重の改善がみられました。メタボリックシンドロームの改善には体重減少やリバウンド防止が重要であることから、日頃から継続的に生活習慣病の改善に努めましょう。

当事業団の健康診断及びそのデータを皆様の健康管理に役立てていただき、疾病予防、疾病の早期発見・早期治療の一助になれば幸いに存じます。

平成24年10月

財団法人 福岡県すこやか健康事業団
会長 原 信之

平成22年度 がん検診実施状況総括(日本対がん協会全国支部合計と事業団実績)

		受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がんであった者(人)	がん発見率(%)
		(A)	(B)	B/A×100	(C)	C/B×100	(D)	D/A×100
胃がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	82,005	6,039	7.4	4,611	76.4	94	0.11
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,431,647	207,877	8.5	154,167	77.4	2,683	0.11
子宮頸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	60,156	586	1.0	482	82.3	37	0.06
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,451,597	16,971	1.2	12,495	77.7	924	0.07
乳がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	57,622	4,561	7.9	4,101	89.9	152	0.26
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	1,274,916	78,913	6.2	65,384	86.3	2,807	0.23
大腸がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	57,048	3,223	5.6	2,063	64.0	70	0.12
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	2,243,113	136,464	6.1	88,331	68.7	3,353	0.16
肺がん検診	福岡県支部(当事業団)データ	44,344	2,091	4.7	1,861	89.0	35	0.08
	日本対がん協会(全国支部合計)データ	3,374,815	74,584	2.2	54,251	75.5	1,192	0.04

1. 胃がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M・SMと定義

	受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がんであった者(人)	がん発見率(%)	早期がん数(人)	早期がん率(%)	陽性反応適中度(%)
地域	50,912	3,653	7.2	3,247	88.9	80	0.16	53	66.3	2.19
職域	29,149	2,236	7.7	1,292	57.8	14	0.05	9	64.3	0.63
ドック	1,944	150	7.7	72	48.0	0	0	0	0	0
計	82,005	6,039	7.4	4,611	76.4	94	0.11	62	66.0	1.56

平成22年度の胃がん検診受診者数は地域で50,912人、職域で29,149人、人間ドックで1,944人、計82,005人であった。全体の要精検率は7.4%、精検受診率は76.4%、発見がん数は94人ががん発見率は0.11%、そのうち早期がんは62人で早期がん率は66.0%、陽性反応適中度は1.56%であった。

いずれの値も、厚生労働省が平成20年に策定した市町村事業における評価指標、(許容値:精検受診率70%以上、要精検率11%以下、がん発見率0.11%以上、陽性反応的中度1.0%以上)は満たしている。

2. 子宮頸がん検診の実施状況

※早期がんを臨床病期 I A1期までと定義

	受診者数(人)	要精検者数(人)	要精検率(%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がんであった者(人)	がん発見率(%)	早期がん数(人)	早期がん率(%)	陽性反応適中度(%)
地域	48,633	390	0.8	351	90.0	34	0.07	21	61.8	8.72
職域	10,843	176	1.6	116	65.9	3	0.03	3	100.0	1.70
ドック	680	20	2.9	15	75.0	0	0	0	0	0
計	60,156	586	1.0	482	82.3	37	0.06	24	64.9	6.31

平成22年度の子宮頸がん検診受診者数は地域で48,633人、職域で10,843人、ドックで680人の計60,156人であった。要精検率1.0%、精検受診者数は482人、精検受診率は82.3%、発見がん数は37人ががん発見率は0.06%、そのうち早期がんは24人で早期がん率64.9%、陽性反応的中度は6.31%であった。

これは、「がん検診事業の評価に関する委員会(厚生労働省)」で報告している子宮がん検診に対する許容値(要精検率1.4%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.05%以上、陽性反応的中度4.0%以上)を全て満たすものであった。

3. 乳がん検診の実施状況

①平成22年度 乳がん検診受診状況

※早期がんを臨床病期Ⅰ期までと定義

	受診者数 (人)	要精者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	46,366	3,607	7.8	3,340	92.6	141	0.3	89	63.1	3.9
職域	10,532	872	8.3	701	80.4	11	0.1	5	45.5	1.3
ドック	724	82	11.3	60	73.2	0	0	0	0	0
計	57,622	4,561	7.9	4,101	89.9	152	0.26	94	61.8	3.3

平成22年度の乳がん検診受診者数は地域で46,366人、職域で10,532人、人間ドックで724人、計57,622人であった。全体の要精検率は7.9%、精検受診率は89.9パーセント、発見がん数は152人でがん発見率は0.26%、そのうち早期がんは94人で早期がん率61.8%、陽性反応適中度は3.3%であった。

これらの成績は、厚生労働省が平成20年に策定した地域検診における評価指標(許容値:要精検率11.0%以下、精検受診率 80%、がん発見率0.23%、陽性反応適中度2.5%以上)は満たしている。下表は平成21年度の乳がん検診状況であるが、これと比較したところ、受診者数は職域は増加しているが、地域では5,000人程度減少している。

参考:平成21年度乳がん検診状況

	受診者数 (人)	要精者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	51,419	3,859	7.5	3,643	94.4	202	0.39	127	62.9	5.2
職域	11,383	849	7.5	670	78.9	21	0.18	12	57.1	2.5
ドック	715	70	9.8	55	78.6	1	0.14	1	100.0	1.4
計	63,517	4,778	7.5	4,368	91.4	224	0.35	140	62.5	4.7

②クーポン券の効果～クーポン対象年齢の受診者数の変化

H20.21同一市町村

	H20	H21	前年比
40歳	620	1,879	3.03
45歳	648	1,404	2.17
50歳	534	1,628	3.05
55歳	1,020	2,169	2.13
60歳	1,311	3,581	2.73
クーポン年齢計	4,133	10,661	2.58
計	41,430	51,419	1.24

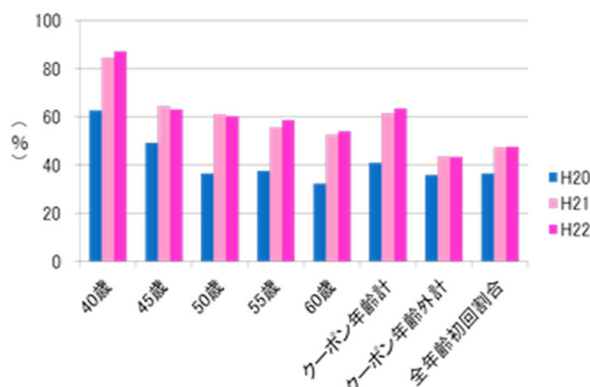
平成20年度と平成21年度のクーポン対象年齢の受診者数を比較し、クーポン券の効果を見たところ、節目年齢の受診者数はクーポン券が配布されていなかった平成20年度に比べて平成21年度は各年齢とも増加し、全体で約2.6倍となっている。

H21.22同一市町村

	H21	H22	前年比
40歳	1,660	1,740	1.05
45歳	1,214	1,345	1.11
50歳	1,428	1,347	0.94
55歳	1,890	1,623	0.86
60歳	3,117	3,077	0.99
クーポン年齢計	9,309	9,132	0.98
計	44,648	42,027	0.94

平成22年度においても左表のとおり、クーポン対象年齢の受診者数の減少はみられていない。

クーポン対象年齢の初回割合の変化(地域)



中でも、過去3年以内に受診歴のない者を初回受診者とした場合、初回受診者は平成20年度と比べ平成21、22年度に各年齢とも平均1.3倍高くなっており、2年連続同様の傾向である。

4. 大腸がん検診の実施状況

※早期がんを深達度M・SMと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	30,118	1,880	6.24	1,521	80.9	63	0.21	40	63.5	3.35
職域	24,400	1,238	5.07	508	41.0	6	0.02	4	66.7	0.48
ドック	2,530	105	4.15	34	32.4	1	0.04	1	100.0	0.95
計	57,048	3,223	5.65	2,063	64.0	70	0.12	45	64.3	2.17

平成22年度の大腸がん検診受診者は地域が30,118名、職域が24,400名、ドックが2,530名、計57,048名であった。全体の要精検率は5.65%、精検受診率は64.0%、発見がん数は70例、がん発見率は全体で0.12%、そのうち早期がんは45例で早期がん率64.3%、陽性反応適中度は2.17%であった。

厚生労働省が平成20年に策案した市町村事業における評価指標(許容値:要精検率7.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.13%以上、陽性反応的中度1.9%以上)は満たしている。

5. 肺がん検診の実施状況

①平成22年度 肺がん検診受診状況 (喀痰検査のみ含む)

※早期がんを臨床病期ⅠA期までと定義

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	42,667	2,035	4.8	1,820	89.4	35	0.08	19	54.3	1.72
職域	1,677	56	3.3	41	73.2	0	0	0	0	0
計	44,344	2,091	4.7	1,861	89.0	35	0.08	19	54.3	1.67

②平成22年度 肺がん検診受診状況 (喀痰検査のみ除く)

要精検を胸部読影判定D・Eとした場合

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	42,258	2,033	4.8	1,818	89.4	35	0.08	19	54.3	1.72
職域	1,660	55	3.3	40	72.7	0	0	0	0	0
計	43,918	2,088	4.8	1,858	89.0	35	0.08	19	54.3	1.68

要精検を胸部読影判定Eのみとした場合

	受診者数 (人)	要精検者 数(人)	要精検 率(%)	精検受 診者数 (人)	精検受 診率(%)	がんで あった者 (人)	がん発見 率(%)	早期がん 数(人)	早期がん 率(%)	陽性反 応適中 度(%)
地域	42,258	694	1.6	635	91.5	16	0.04	8	50.0	2.31
職域	1,660	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43,918	694	1.6	635	91.5	16	0.04	8	50.0	2.31

読影判定別 がん発見内訳

	受診者数 (人)	読影判定D			読影判定E			陽性反応適中度 (%)	
		該当者 (人)	がん(人)		該当者 (人)	がん(人)		全体 (D+E)	Eのみ
			早期	進行		早期	進行		
地域	42,258	1,339	11	8	694	8	8	1.72	2.31
職域	1,660	55	0	0	0	0	0	0	0
計	43,918	1,394	11	8	694	8	8	1.68	2.31

平成22年度の肺がん検診受診者数は地域で42,667人、職域で1,677人、計44,344人であった。

胸部読影判定D・E判定を要精検とした場合、要精検率は4.8%、精検受診率は89.0%、発見がん数は35人でがん発見率は0.08%、そのうち早期がんは19人で、早期がん率54.3%、陽性反応適中度は1.67%であった。

一方、胸部読影判定E判定を要精検とした場合、要精検率は1.6%、精検受診率は91.5%、発見がん数は16人でがん発見率は0.04%、そのうち早期がんは8人で、早期がん率50%、陽性反応適中度は2.31%であった。

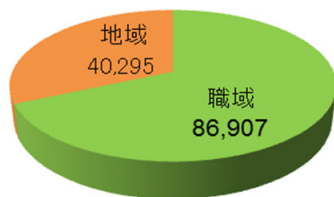
「がん検診事業の評価に関する委員会(厚生労働省)」で報告している市町村事業における肺がん検診に対する許容値(E判定のみ)では要精検率3.0%以下、精検受診率70%以上、がん発見率0.03%以上、陽性反応適中度1.3%以上であり、当事業団における値は全て満たしていた。

一方、読影判定別の要精検者は、Dが1,394人、Eが694人であったが、そのうちD判定からは早期11例、進行期8例の計19例、E判定からは早期8例、進行期8例の計16例のがんが発見された。

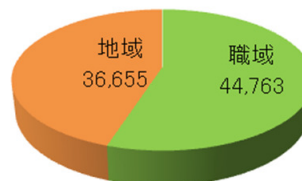
6. 健診・特定保健指導

①平成22年度 健診受診者状況

＜受診者総数＞
(計127,202人)



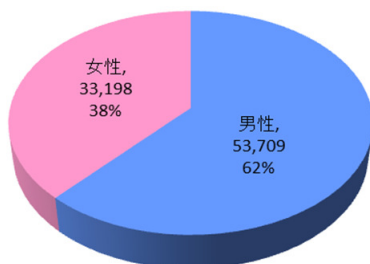
特定健診
(計81,418人)



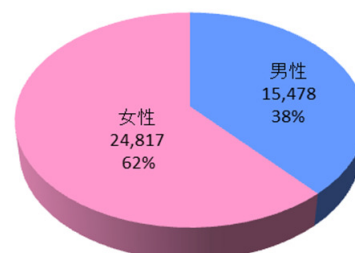
平成22年度の健診受診者総数は、職域86,907人、地域40,295人の計127,202人であった。
その内、特定健診は職域44,763人、地域36,655人の計81,418人であった。

＜性別・年齢構成＞

【職域】



【地域】



	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
男性	10,164	15,400	10,967	11,489	5,689
女性	7,942	9,181	7,098	6,358	2,619

	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男性	652	1,595	2,135	6,834	4,262
女性	2,310	2,255	3,678	11,292	5,282

性別・年齢別にみると、職域は男性が約6割を占め、30代が最も多く、地域は、女性が6割を占め、年齢は60歳代が最も多くなっていた。

②特定保健指導状況

＜腹囲・体重の変化の平均(支援開始6ヶ月後)＞

【職域】

積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-2.0 cm	-1.9 kg	-1.4 cm	-1.3 kg

【地域】

積極的支援		動機付け支援	
腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)	腹囲増減数(平均)	体重増減数(平均)
-1.5 cm	-1.9 kg	-0.4 cm	-1.1 kg

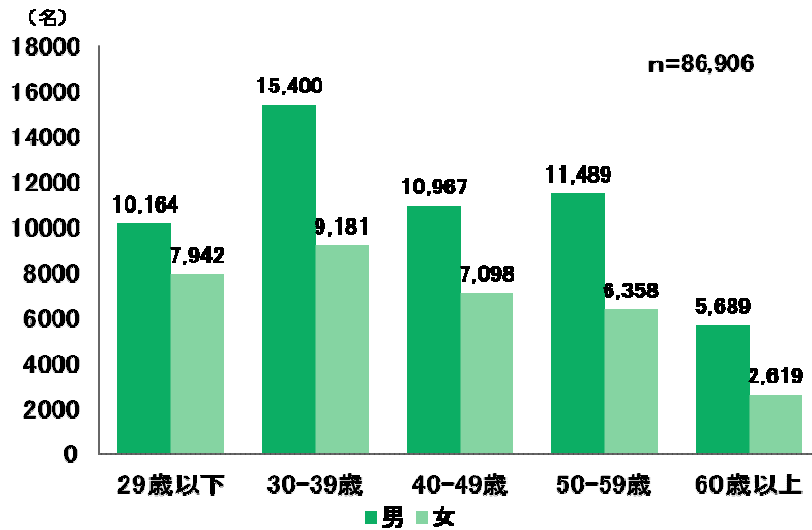
7. 労働衛生

一般健康診断実施状況

年齢別に区分すると、29歳以下は18,106人、30～39歳は24,581人、40～49歳は18,065人、50～59歳は17,847人、60歳以上は8,308人であった。

男女別の年齢構成では、男女ともに30歳代での受診が最も多く、次いで男性では50代、女性では20歳代が多い結果となった。

【年齢階級別受診者数】



【男女別年齢階級別受診割合】

